

飯盛城

いもりじょう

佐世保
遺跡
レポート

- 所在地 / 佐世保市相浦町(愛宕山)
- 創建者 / 松浦丹後守 親(まつうらたんごのかみちかし)
- 年代 / 天文4年(1535年)
～元和元年(1615年)
- 形式 / 山城・館城
- 遺構 / 曲輪・石塁・堅堀・井戸

大智庵城を落とされ、一度は滅びたかに思われた宗家相浦氏は16代当主親(ちかし)の飯盛城建立により、相浦の地にて復活を遂げました。

そののち平戸方の再三に渡る攻撃にも城主の松浦丹後守親と家臣の奮闘により屈することなく宗家相浦の全盛期を迎えました。しかし1563年より始まった戦で長期に渡る兵糧攻めと支城の落城により、平戸方に包囲され飯盛城は孤立してしまいます。やむなく城主の松浦丹後守親は平戸の隆信(たかのぶ)の次男九郎親(くろうちかし)を17代当主として養子に迎え、事実上の降伏をします。その後、17代九郎親からその子の18代定(さだむ)へと引き継がれ、最後は一国一城令によって取り壊されたと考えられています。

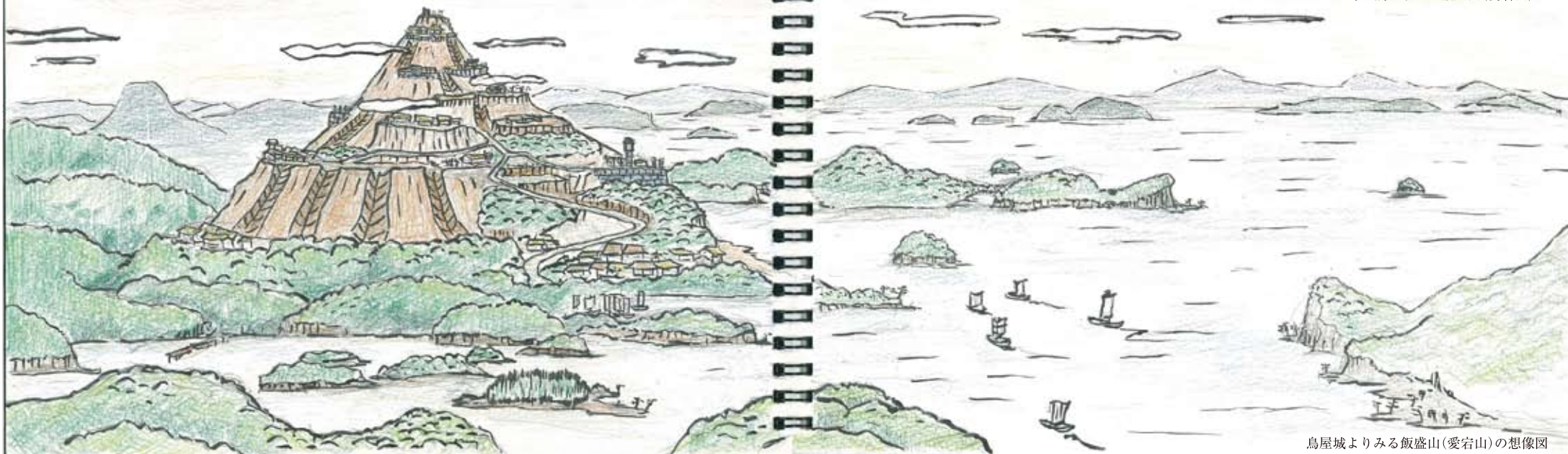


半坂峠よりみる飯盛山(愛宕山)

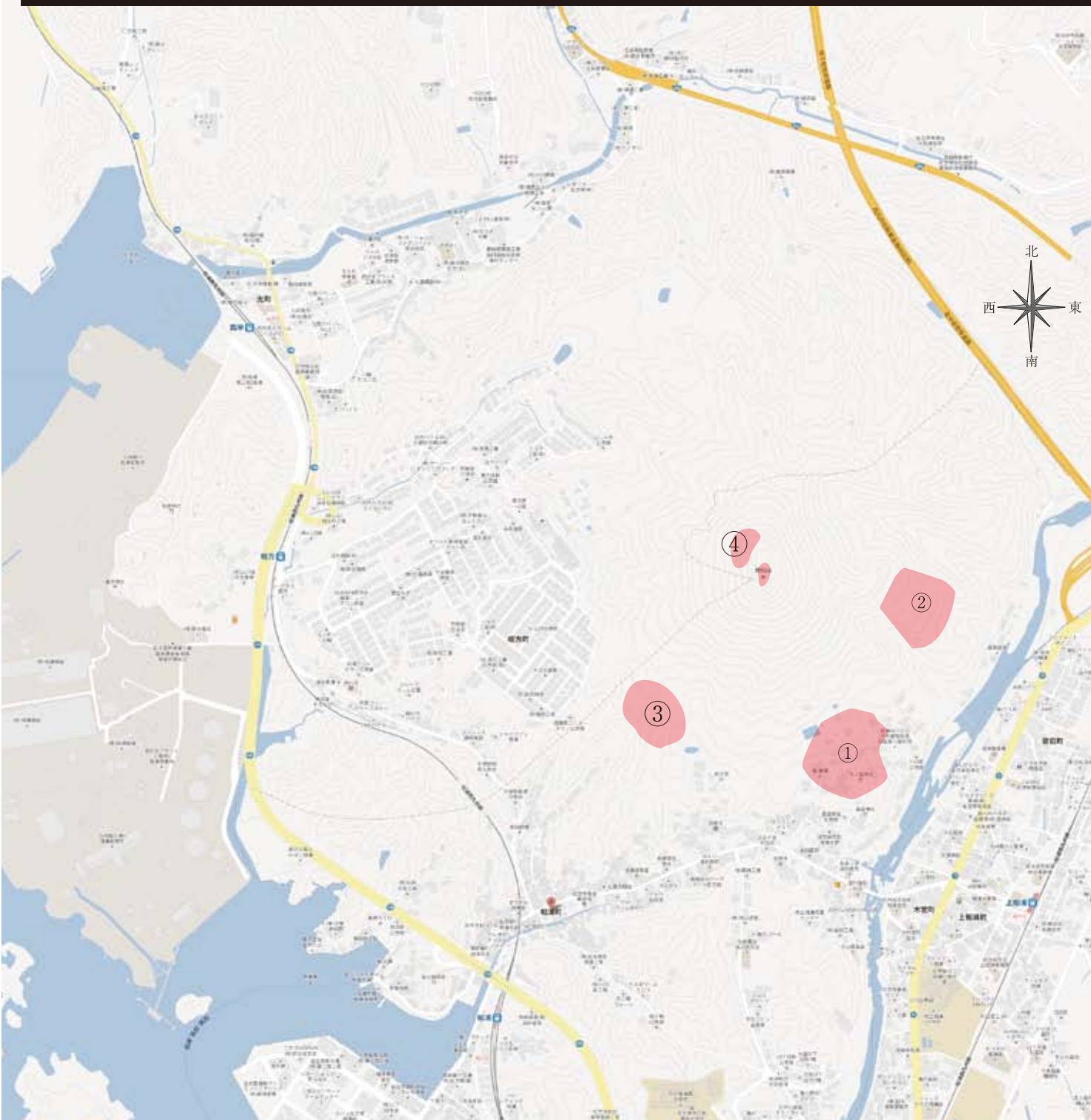


鳥屋城よりみる飯盛山(愛宕山)

飯盛城



鳥屋城よりみる飯盛山(愛宕山)の想像図



〈まとめ〉現時点での城と思われるポイント

- ① 木ノ宮神社、飯盛神社、浄水場一帯
- ② 東側中腹
- ③ 西側洪徳寺の上の天満宮周辺
- ④ 北西側、山頂下周辺

現時点では①番の木ノ宮神社、飯盛神社、浄水場一帯を主郭として、②を東出曲輪、③を西出曲輪とする。そして山頂に見張り台があったとされている。

しかしこの3つの郭はそもそも異なった年代に築かれたとの意見もある。さらに、最近発見された頂上より北西側に少し下った所で見つかった石塁、さらには2つの平場と10m程の塹堀がその付近で確認されている。この場所は、永祿の

飯盛城は日本で始めて、戦で鉄砲が使われた場所である。という説があります。日本に初めて鉄砲が伝来したのは1543年(天文12年)。種子島に漂着したポルトガル人が伝えたといわれています。ところが、新しい研究によると鉄砲を伝えたのはポルトガル人ではなく、彼らを連れてきた中国の海賊、王直(おうちょく)だったらしい。その王直は、一説によると1541年(天文10年)にすでに平戸に来ていたといわれており、そして、平戸松浦氏の歴史書には、飯盛城攻めで、鉄砲を使ったという記録があります。ひょっとすると1542年の時点で、すでに平戸松浦氏は鉄砲を所有しており、第1回飯盛城攻めに使用したのではないのでしょうか？そうすれば、日本で初めて鉄砲が使われた戦は、第1回飯盛城攻めで、鉄砲が初めて伝えられた場所は、平戸ということになる。というわけです。